第23回東海小児整形外科懇話会

当番幹事：伊藤芳毅(岐阜大学整形外科)
日　　時：2008年2月9日(土)
場　　所：大正製薬(株)名古屋支店　8階ホール

一般演題　　座長：徳山　剛

1．Mesomelic dysplasia Kantaputra type の1例

名古屋大学整形外科
○Karolina Anna Siwicka
鬼頭浩史・川澄本明・石黒直樹
国立三重病院　西山正紀

We report on a male patient with mesomelic dysplasia Kantaputra type, characterized by symmetrical bilateral forearm and lowed leg shortening with feet malformations and ankle-tarsal synostoses. MRI evaluation was useful for the detection of cartilaginous ankle-tarsal synostoses that could not be seen by plain radiography at an early age.

2．Brachydactyly を伴った Metaphyseal Chondrodysplasia With Cone-Shaped Epiphyses の1例

愛知県心身障害者コロニー中央病院整形外科
○馬渕晃好・高嶺由二・伊藤孝紀
沖　高司

症例は5歳女児．円形顔貌，低身長，精神発達障害遅滞，短指趾を認め，立位歩行は不能であった．X線画像において，Brachydactyly，下肢長管骨に Cone-shaped epiphyses，両膝蓋骨脱臼を認めた．血清中のPTHは上昇，Caは低下していた．なお，Brachydactyly を伴わない症例では，偽性上皮小体機能低下症の原因遺伝子であるGNASの変異の報告もあり，遺伝子学的アプローチも必要と思われる．

3．Melnick-Needles 骨異形成症の1例

名古屋大学整形外科[1)]，
心身障害児療育センター第二青い鳥学園[2)]
○川澄本明[1)]・鬼頭浩史[1)]・吉橋裕治[2)1)]
石黒直樹[1)]

症例は7歳の女児で，特徴的な顔貌，四肢関節拘縮，長管骨の弯曲変形および手足の変形を認めた．フィラミンAの遺伝子変異を認め，Melnick-Needles 骨異形成症と診断した．

4．股関節痛で発症した急性リンパ性白血病の1例

浜松医科大学整形外科
○森本祥隆・星野裕信・長野　昭

小児の白血病は骨痛や関節痛を初発症状として発症した場合，白血病と診断されずに，整形外科的疾患として対症療法が行われることがある．症例は3歳男児．左股関節痛を訴え単純性股関節炎と診断されたが，症状軽快せず，37°台の微熱が持続していた．末梢血で芽球は観察されず，骨髄穿刺にて急性リンパ性白血病と診断され，化学療法が施行された．若干の文献的考察を加えて報告する．

5．Growing rod による乳幼児側彎症の治療経験

岐阜大学骨関節再建外科
○岩井智守男・宮本　敬
岐阜大学整形外科
細江英夫・河村真吾・福田章二
田中健一郎・清水克時

われわれの施設では，乳幼児側彎症に対して growing rod を使用した側彎の矯正・延長を行っている．症例数はまだ4症例と少なく，延長回数も最高で3回と非常に短期間ではあるが，現時点での growing rod の問題点，今後の展望などにつき若干の文献的考察を含めて報告する．

6．治療に苦慮した難治性結核性骨髄炎の1例

岐阜大学整形外科
○石丸大地・伊藤芳毅・田中　領
小川寛恭・清水克時
松波総合病院整形外科　福田　雅・三宅　智

結核性骨髄炎は稀な疾患であり，特に小児の骨端に発生する結核性骨髄炎は非常に稀である．小児の結核性骨髄炎は症状が特徴的でなく，診断に苦慮することが多いが，生検・病理学的検査などで診断されれば，局所安静，抗結核薬，病巣郭清の併用で改善することが多い．今回，我々は病巣郭清と抗結核薬の併用にて治療したが，再発した小児の結核性骨髄炎を経験した．当院での治療法とその経過について文献的考察を加えて報告する．

7．重度痙性四肢麻痺児の股関節亜脱臼の治療経験

愛知県青い鳥医療福祉センター整形外科
○栗田和洋・名倉章敏・岡川敏郎

今回，低酸素性脳症による重度痙性四肢麻痺に生じた有痛性の痙性股関節亜脱臼に対し，軟部解離術による整復を試みた．術前，股関節外転・伸展，膝関節伸展緊張がみられ，左股関節痛による不眠，介護困難があった．軟部解離手術により整復を得たが，経過中，股関節脱臼，右脛骨骨折を生じた．整復維持のため外転装具を長期に要している．本例の治療につき検討を加え報告する．

主　題：先天性股関節脱臼　　座長：岩佐一彦

8．先天性股関節脱臼後の臼蓋形成不全に対し10歳代で股関節鏡および寛骨臼回転骨切り術を行った2例

浜松医科大学整形外科
○星野裕信・山崎　薫・森本祥隆
長野　昭

先天性股関節脱臼後の亜脱臼遺残例および臼蓋形成不全例に対しては，必要に応じて就学前に Salter 骨盤骨切り術などの補正手術を行うことが多い．今回我々は，先天性股関節脱臼後の臼蓋形

成不全に対し就学前に補正手術が行われず，10歳以降に疼痛が強くなり股関節鏡および寛骨臼回転骨切り術を行った12歳と16歳の症例を経験したので，軟骨および関節唇損傷の程度を含めた股関節鏡所見の詳細と術後の経過について報告する．

9．先天性股関節脱臼に対するリーメンビューゲル法の治療成績

名古屋大学　○鬼頭浩史・川澄本明・石黒直樹
心身障害児療育センター第二青い鳥学園
吉橋裕治・則武耕治
あいち小児保健医療総合センター
服部　義・北小路隆彦
豊田市こども発達センター　小野芳裕
東海市民病院　須田　光
高士病院　高士昌三
愛知県青い鳥医療福祉センター　栗田和洋
北斗病院　大嶋義之
社会保険中京病院　加藤光康

名古屋大学整形外科においてリーメンビューゲル法により初期治療を行い，1年以上経過観察し得た先天性股関節脱臼(奇形性脱臼は除く)のうち，評価可能な資料が残存していた198例204股(両側罹患6例)の治療成績を検討した．片側罹患例の整復率は85.4%，ペルテス様変形の発生率は7.8%であった．一方，両側例で整復されたものは1例のみであった．

10．先天股脱整復後の不安定股に対するSWASH装具の経験

あいち小児保健医療総合センター整形外科
○古橋範雄・北小路隆彦・服部　義

SWASH(立位，歩行，座位股関節装具)は主として脳性麻痺児の股関節内転筋緊張に使用される股外転装具であり，特殊な継ぎ手にて股関節屈曲時(座位時)に外転角度が増強し，歩行時には歩行を容易にするため，外転角度が減少するように工夫されており，さらに就眠時の使用も可能である．今回脱臼整復後に関節弛緩性のため再脱臼をきたした先天股脱2例に対し本装具を使用したので報告する．

11．先天性股関節脱臼に対する牽引療法の治療成績

希望が丘学園
○徳山　剛・岩佐一彦・小倉広康
岐阜大学整形外科　伊藤芳毅

当園ではRB不適応の先天性股関節脱臼に対して牽引療法を行っている．6歳に達した症例は平成8年以降で32例である．このうち経過観察できた26例について治療成績を報告する．男児1例，女児25例，初診時月例4から34か月，平均11.4か月であった．26例中2例は経過中に再脱臼がみられ観血的整復を行っている．この2例を含め骨性の補正手術を追加したものは7例であった．牽引療法で経過良好のものは19例であった．

12．6歳時に発見された先天性股関節脱臼の2症例

静岡県立こども病院整形外科
○岡田慶太・滝川一晴・浅井秀明
東京大学医学部附属病院リハビリテーション医学
芳賀信彦
福岡市立こども病院・感染症センター　藤井敏男

学童期まで未治療の先天性股関節脱臼は治療が困難であることは周知の事実である．今回我々は6歳時に発見された先天性股関節脱臼の2症例を経験したので報告する．両症例共に，前方アプローチによる観血整復，内転筋切離，大腿骨短縮，減捻内反骨切り術，西尾式骨盤骨切り術を行い，平均経過観察期間は3年である．大腿骨頭壊死，臼蓋への骨棘形成，外方化及び形成臼蓋の骨吸収などを合併しており治療に難渋している．

13．歩行開始後の先天性股関節脱臼に広範囲展開法を行った6例

名古屋市立大学整形外科
○堀内　統・和田郁雄・若林健二郎
大塚隆信

我々は歩行開始期以後に当院を受診した先天性股関節脱臼患児に対して広範囲展開法を用いて脱臼整復を行った．今回，短期ではあるがその成績を検討する．症例は6例6股．男児1名，女児5名．手術時年齢は1歳3か月から1歳9か月．前方進入により広範囲展開法に準じて整復操作を行った．術後経過観察期間は4〜24か月であった．X線より術後の求心性，ペルテス病様変化の有無，臼蓋角を評価した．

14．乳児健診で見逃された先天股脱の問題点と対策

千曲中央病院整形外科　○山田順亮
長野赤十字上山田病院整形外科　加藤光朗
長野赤十字病院整形外科
関　一二三・岩月克之・新城龍一
吉岡　祐

我々は今年になって乳児検診見逃しにより，初期治療が処女歩行開始以後となった3例の片側先天股脱症例を経験した．3例は保存療法によって整復出来ず広範囲展開法など何らかの観血的操作を要した．これらの症例の家人達はいずれも児の下肢に何らかの異常を認識していたにもかかわらず，健診では異常無しとされたことに不満を抱いていた．健診見逃しに伴う問題点を今後の健診体制の在り方について考察する．

特別講演　　座長：伊藤芳毅

日整会教育研修単位(N-03 小児整形外科疾患，N-12 膝・足関節・足疾患)

(認定番号 07-1882-00)

「いわゆる先天股脱の治療の考え方」

岡山大学大学院医歯薬学総合研究科
生体機能再生・再建学講座准教授　三谷　茂先生